

群馬県立高校の家庭科で「明るい未来へTRY!」を 活用した授業を実施しました！

～日常生活を取り巻くリスクと損害保険の仕組み・種類について学ぶ～

日本損害保険協会 関東支部 群馬損保会（会長：本谷 祐介・三井住友海上火災保険株式会社群馬支店長）では、3月6日（金）に群馬県立渋川工業高等学校で、同校家庭科の大須賀 裕美教諭が当協会作成の高校生向け金融教育副教材「明るい未来へTRY!」を活用した授業を実施し、関東支部職員がサポートしました。

当日は、「家庭基礎」の指導領域で、1年生の4クラス141名を対象に、「明るい未来へTRY!」を使用して、「将来に備えた経済計画を考えよう～身の回りのリスクへの対策～」と題した授業およびグループワークを行いました。

各回とも、導入として、大須賀教諭から、自転車通学者を対象とした「自転車保険」について紹介したうえで、日常生活を取り巻くリスクとその備えを考える必要性について説明が行われました。

ついで、関東支部職員から、将来に備えた経済計画を考えるうえで、将来を安心して暮らすために、貯蓄の必要性、貯蓄と保険の違い、人生で遭遇する可能性のあるリスクとリスクに備える保険、社会保険と民間保険の違い等について、具体的に解説を行いました。

続いてのグループワークでは、将来やってみたいことの中から「憧れのひとり暮らしがしたい!」「友だちとドライブに行きたい!」という二つのテーマについて、各生徒がいずれかを選択したうえで、ワークシートに基づき、「起こりうるリスク」と「リスクへの対策」についてまずは個人で考えたうえで、次にグループ間で意見交換や共有を行い、出された内容について発表が行われました。

そして、そこで出された様々なケースで想定されるリスクとそれに対応する保険について説明を行い、最後に、授業のまとめとして大須賀教諭から、社会保険と民間保険を理解するうえでは、「公助・共助・自助」という概念をしっかりと理解することが大切であり、社会保険では不足する部分を自助である民間保険でしっかりと補完することが大切であることが伝えられました。

ワークシートにおいて、生徒からは、「自分が思っていた以上に多くの保険があることが分かった。起こりうるリスクを考え、リスクへの対策を行うことが大切だと知った。公助に頼らず、自助が大切であることも分かった。」などといった感想が寄せられ、本授業を通じて、将来、社会生活を送る上で遭遇するリスクに応じて保険を活用していくことが重要であることを生徒に理解してもらうことができました。

当支部では、このような授業実践、講師派遣等を通じて、今後も高校生の損害保険リテラシーの向上に努めてまいります。



生徒に説明する大須賀 裕美教諭



グループワークの様子